

11月の物価 2.5%上昇

クリスマス・年末年始にも影響

11月の消費者物価指数
(2020年1100)

は、値動きの大きい生鮮食品をのぞく総合指数が106・4となり、前年同月より2・5%上がった。年初に比べて勢いは弱まりつつあるが、幅広い品目で上昇した。足元では、ケーキやフライドチキンなどクリスマスに消費が増える商品が高い。交通費や宿泊費も上がっており、年末年始も出費がかさみそうだ。

総務省が22日発表した。生鮮食品をのぞく食料は6・7%上がった。春から夏にかけて記録した9%台の伸びに比べると、一服感が出てきた。

ただ、クリスマスに欠かせないケーキは6・4%上がった。とくにタマゴや砂糖、バターの高騰が響き、大手メーカーや街の洋菓子

店が相次いで値上げに踏み切っている。ホームパーティーでの需要が高いフライドチキンは19・2%、宅配ピザも9・5%上昇した。

一方、家庭用ゲーム機やゲームソフトの価格は横ばい。指輪も3・2%の上昇にとどまる。また大手百貨店の年末商戦は好調な滑り出しで、高額品を中心に

売れている。伊藤忠総研の中浜萌氏は「ふだんは節約するが、高級な化粧品やジュエリーへの出費はいとわれない。消費の二極化が進んでいる」と指摘。今年のプレゼントは期待できるかも。

年末年始の帰省や旅行も物価高が直撃しそうだ。宿泊料は前年同月より62・9%上がった。観光客の増加で単価がアップし、国

の観光促進策「全国旅行支援」の効果がなくなったことも大きい。新幹線の料金は4・2%、航空運賃は3・4%上昇。ガソリンも3・9%高くなった。

ただ、冬の光熱費は抑えられそうだ。電気代は18・1%、都市ガス代は16・8%下がった。政府の補助金の効果に加え、足元の燃料価格が安くなったためだ。

(米谷陽一)